

**株式会社アドバンテスト
決算説明会**

2011年7月27日
常務執行役員 管理本部長 中村 弘志

2011年度 第1四半期決算概要

業績の概要

ADVANTEST.

(単位: 億円)

	2010年度				2011年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前期比 (%)	前年 同期比 (%)
受注高	308	233	213	336	384	14.4	24.7
売上高	235	286	254	221	268	21.5	14.1
売上原価	119	149	135	108	137	27.3	15.3
売上総利益	116	137	119	113	131	16.0	12.8
営業利益	18	29	12	2	8	394.5	-56.7
営業外収支	-2	-4	-2	3	-4	-	-
税引前純利益	16	25	10	5	4	-9.0	-76.8
当期純利益	8	18	7	-1	3	-	-56.1
受注残	276	223	182	296	412	39.1	49.5

2011年度第1四半期の業績概要

- ・受注高は、384億円 前期比で 14.4%増
- ・売上高は、268億円 前期比で 21.5%増

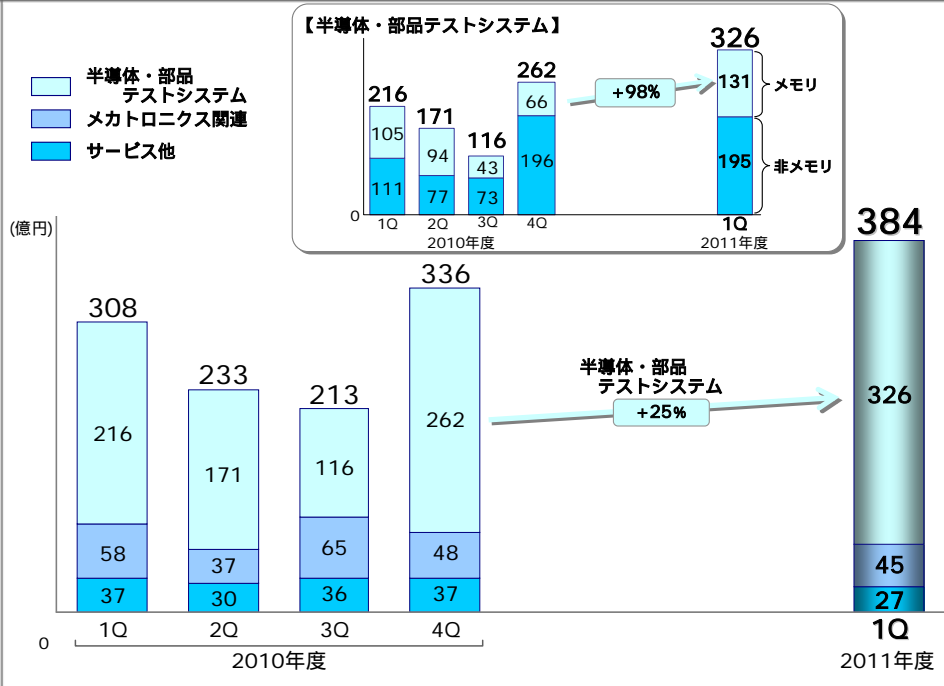
また、

- ・営業利益は、 8億円
- ・税引前純利益は、 4億円
- ・当期純利益は、 3億円

受注残は412億円に増加

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST.



2011年度第1四半期の事業セグメント別受注高

半導体・部品テストシステム事業

・前期比25%増 326億円

(主な増加要因)

- ・非メモリ・テストでは、
 - ・MPU向け「T2000」で大型受注
- ・メモリ・テストでは、
 - ・PC用DRAM向けが好調

メカトロニクス関連事業

・前期比5%減 45億円

(主な減少要因)

- ・テスト・ハンドラ
アナログIC向け受注が減少

サービスその他事業

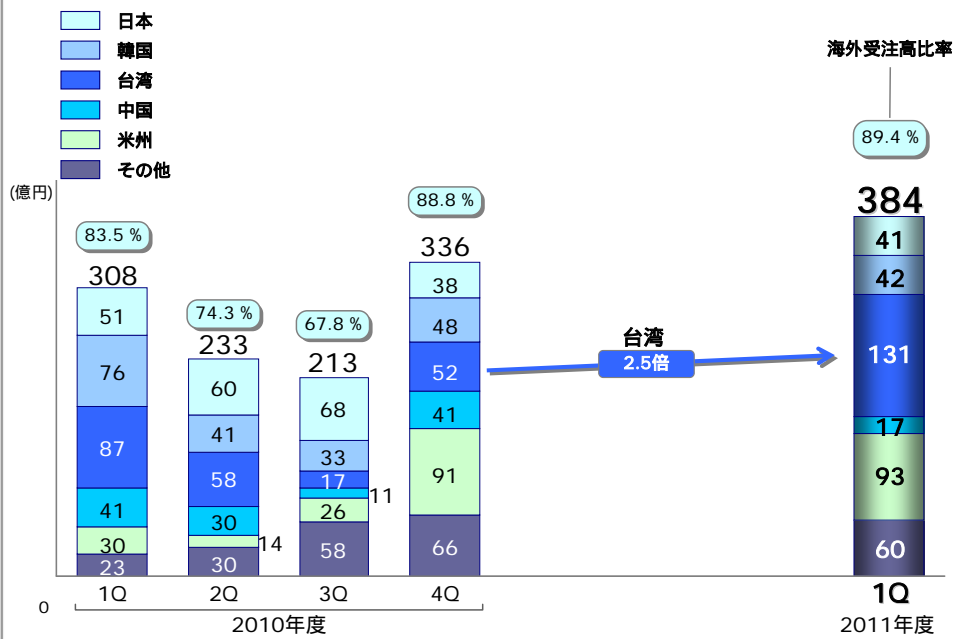
・前期比26%減 27億円

(主な減少要因)

- ・リース収入および中古販売収入が減少

受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST.



2011年度第1四半期の地域別受注高

- ・台湾で大きく増加
- ・米州で引き続き好調

台湾

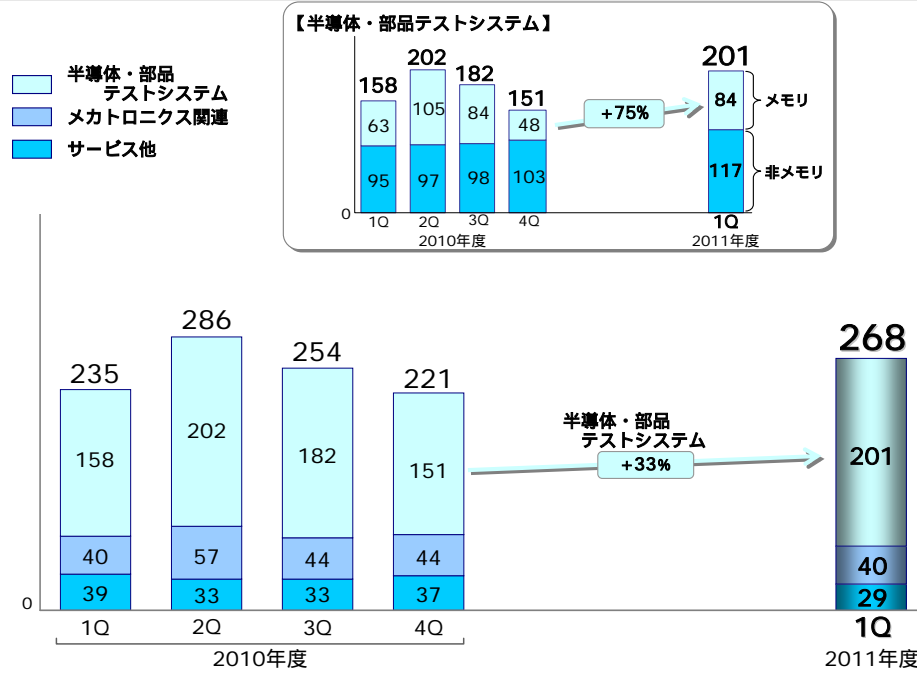
- ・前期比2.5倍増 131億円

(主な増加要因)

- ・PC用DRAM向けのメモリ・テストが需要増加

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST.



2011年度第1四半期の事業セグメント別売上高

半導体・部品テストシステム事業

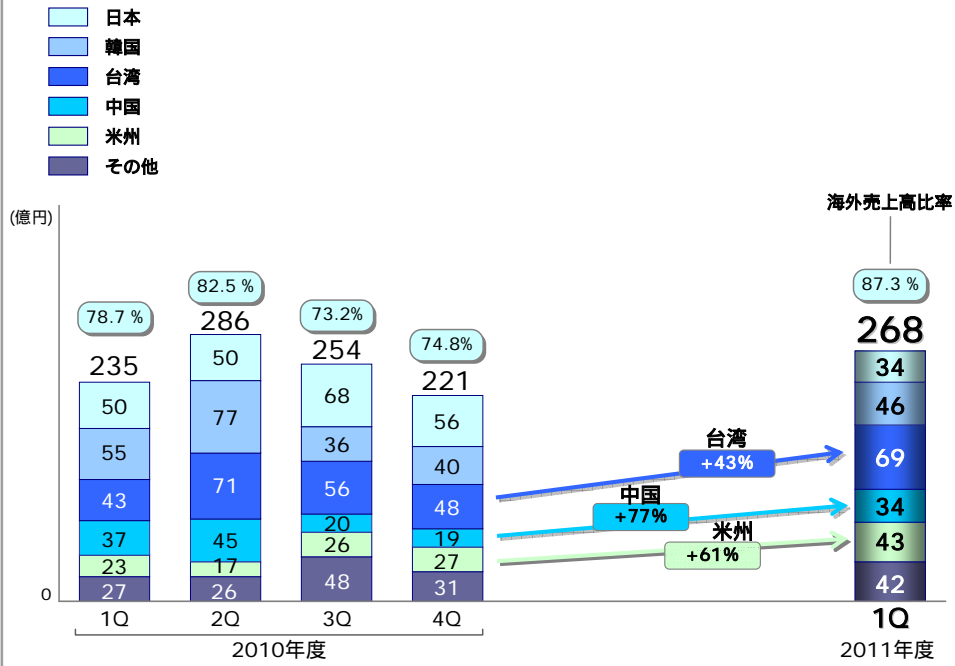
- ・前期比33%増 201億円

(主な増加要因)

- ・非メモリ・テストは、MPU向けが堅調
- ・メモリ・テストは、PC用DRAMの後工程向けが牽引

売上高 地域(出荷先)別

ADVANTEST.

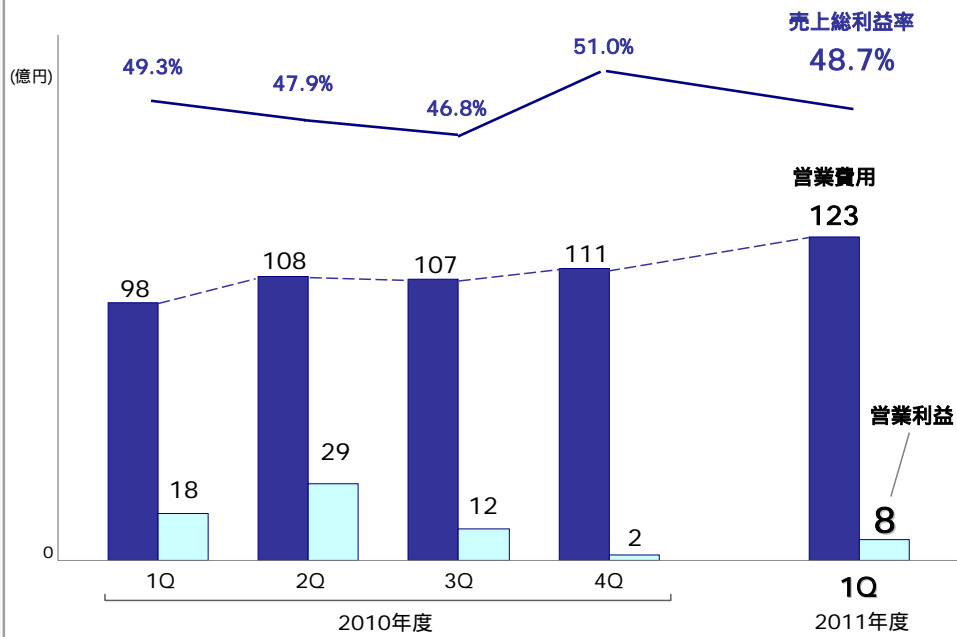


2011年度第1四半期の地域別売上高

- ・ 日本以外で増加
- ・ 特に、メモリメーカーの多い台湾と、非メモリ・テストの中国の伸び率が顕著

営業利益/売上総利益率/営業費用

ADVANTEST.



9

All Rights Reserved - Advantest Corporation

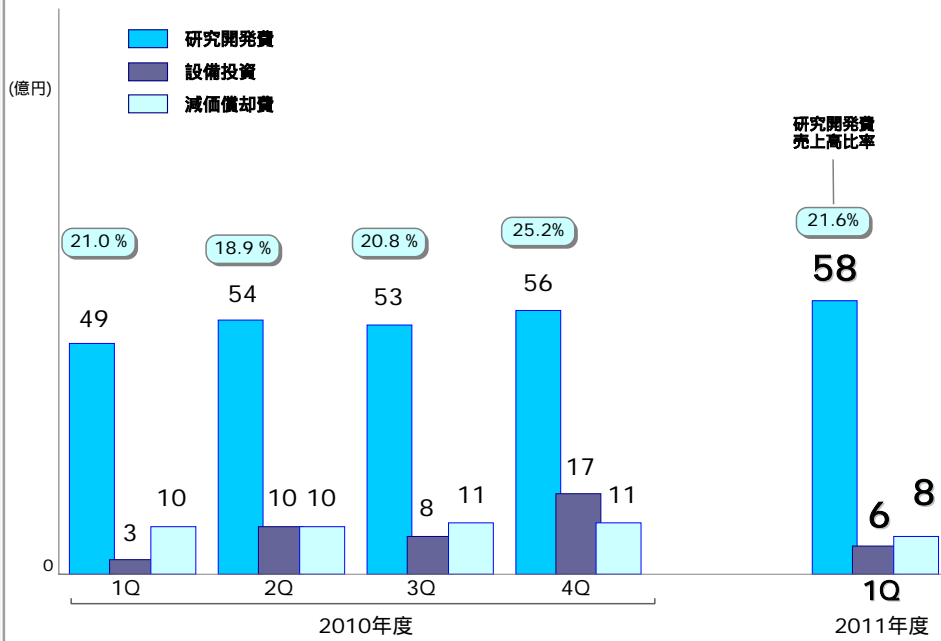
2011/7/27

2011年度第1四半期の営業利益について

- ・ 売上総利益率 48.7%
- ・ 営業費用
買収関連費用の発生があり、前期比11%増 123億円
- ・ 営業利益 8億円

研究開発費 / 設備投資 / 減価償却費

ADVANTEST.



10

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2011/7/27

研究開発費

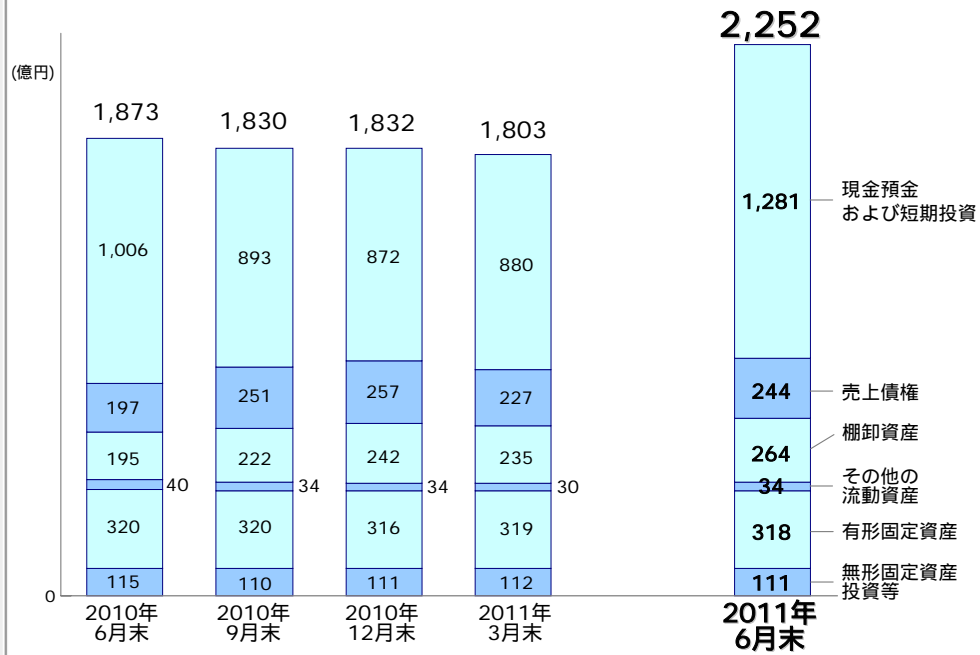
・ 前期比4%増の 58億円

設備投資

・ 6億円

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST.



2011年6月末時点のバランス・シート

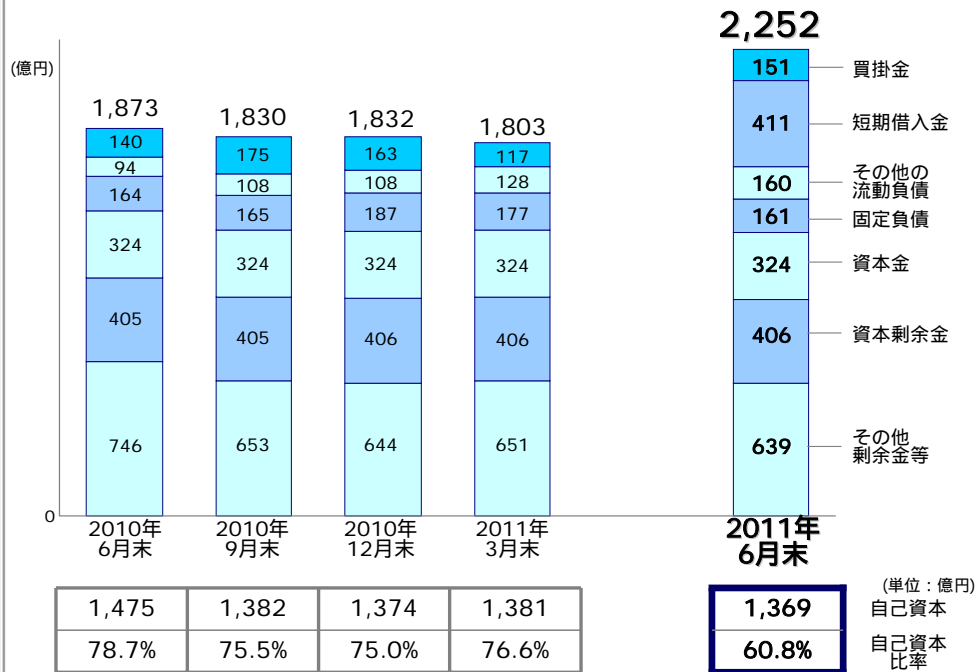
資産の部

- ・ 現金預金および短期投資
2011年3月末比 401億円増加
主に短期借入金411億円
- ・ 売上債権は、
2011年3月末比 17億円増の244億円
- ・ 棚卸資産は、
2011年3月末比 29億円増の264億円

これらの結果、総資産は、
前期末から449億円増の 2,252億円

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST.



負債・資本の部

- ・ 短期借入金 411億円
- ・ 自己資本 1,369億円
- ・ 自己資本比率は
前期からマイナス15.8ポイントの60.8%

以上、2011年度第1四半期の決算について
ご説明しました。

2011年度 事業アップデート

引き続き、当年度の事業の見通しについて説明いたします

2011年度第2四半期は

- ・最終製品需要が弱含み、受注に一服感
- ・売上は順調

<非メモリ・テスト市場>

- ・MPU向けビジネスが引き続き牽引
- ・通信用デバイス、デジタル家電用デバイス向けは軟調

<メモリ・テスト市場>

- ・PC用DRAMの受注は一服

まず、当社の事業環境に対する見方です

- ・先ほどのスライドのとおり、2011年度の第1四半期は受注・売上ともに好調な結果を収めました
- ・しかし、PCやスマートフォンをはじめとする最終製品需要に減速感が生じていることから、足元では、半導体メーカーの稼働率の低下や、設備投資の様子見などの動きが生じています
- ・このため、当社の第2四半期の受注ペースは鈍化傾向へ向かうものと思われます。一方で、売上につきましては、これまでの受注残を背景に順調に推移すると見込んでおります
- ・非メモリ・テスト市場では、MPU向けのテストは、引き続き高い水準で推移するものと期待されます。また通信用デバイスやデジタル家電用デバイス向けの需要は軟調となると見込んでおります
- ・メモリ・テスト市場では、DRAM価格が下落傾向を見せていることから、PC用DRAM向けテストの受注は一服すると予想しております

7月4日、Verigy Ltd.の発行済株式の全株を取得

本買収により業容を拡大

昨年実績ベースで

- ・売上規模約17億ドル
- ・単純合計マーケット・シェア40%強(当社推定)
- ・従業員数 4,900人
- ・21の国と地域で事業展開

**非メモリ・テスト市場での躍進、
そしてグローバルな競争力向上に向けた
事業基盤が整う**

続きまして、Verigy Ltd.との経営統合に関してご説明します

- ・既報のとおり、当社は7月4日、Verigy Ltd.の発行済株式の全株を取得完了し、Verigy Ltd.を当社の完全子会社といたしました
- ・本買収によって、昨年実績ベースでは、売上規模、単純合計マーケット・シェア、従業員数などの面で、当社は大きく業容を拡大しました
- ・また、これまで当社の課題であった非メモリ・テスト市場での躍進、そしてグローバルな競争力向上に向けた事業基盤を整えることができました
- ・今後、市場シェアNo.1を目指し、さらなる売上向上に努めてまいります

製品ポートフォリオと開発効率を最適化

- ・シナジー効果を高めるため「事業戦略本部」を新設
- ・市場マーケティングの強化、技術の融合を加速
- ・魅力あるソリューションの早期提供、新規顧客開拓の推進

豊富となった経営資源を有効活用

- ・組織の枠を越え、柔軟に経営資源を活用
- ・成長分野/新規事業領域へ経営資源を振り向ける
- ・全社的な事業効率を向上



最後に、Verigy Ltd.統合後の経営に関してご説明します

- ・今後、統合シナジーの迅速な創出に注力いたします
- ・まず、製品ポートフォリオと開発効率の最適化について、その効果を高めるため、「事業戦略本部」を新設しました。この組織を中心に、市場マーケティングの強化と、両社が持つ技術の融合を加速していきます。これにより、より魅力あるソリューションの早期提供と、新規顧客の開拓を推進してまいります
- ・また、豊富となった経営資源の活用については、組織の枠を越え、柔軟に経営資源を活用してまいります。その取り組みを通じて、成長分野/新規事業領域へのタイムリーな経営資源の注入や、全社的な事業効率の向上を推進いたします。

また、今期の業績予想については、現時点ではVerigy Ltd.買収に伴う損益への影響を予測することが困難なため、開示を差し控えます。開示可能となった時点で、速やかに公表する予定です

ご注意

当社は米国会計基準を採用しております。
将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、
当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。
これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、
当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと
重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の
要因が内包されています。